

人のうごき

令和2年9月届出分を掲載（希望者のみ）

おたんじょう

瀧田 菜月 ^{なつき} ちゃん	(航・里恵)	南5の4
嶋元 絵菜 ^{えな} ちゃん	(貴大・香)	港町
宮田 斗碧 ^{とあ} くん	(雷斗・朱花)	幸町
斉藤 希幸 ^{きこ} ちゃん	(昂亮・稚子)	南6の6

おくやみ

村上 ユウ子 ^{ゆうこ} さん	77歳	南町
夏井 誠 ^{まこと} さん	64歳	南1の6
中村 敏明 ^{みんあき} さん	72歳	焼尻
鈴木 由美子 ^{ゆみこ} さん	69歳	南6の5
近江谷 キミエ ^{きみえ} さん	87歳	焼尻

人口と世帯数(9月末)

人口	6,703人	(- 10)
男	3,223人	(- 10)
女	3,480人	(± 0)
世帯数	3,527世帯	(- 6)
	()は前月比	



Dr. 佐々尾の健康カルテ

近年、大腸がんは患者数、死亡者数が急増しています。しかし、早期であれば予後は良好であり、検診などの機会を通じ、早期発見することが効果的であると言えます。早期の大腸がんは自覚症状がなく、症状が出てから発見される大腸がんは8割が進行がんであるのに対し、検診で指摘され、精密検査で見つかった場合は6割が早期がんとする報告もあります。

一般的な大腸がん検診として行われる便の検査は、便潜血検査と呼ばれ、便の中に血液が混入していないか確認する検査です。大腸がんからの出血が便に混入することをみるものです。便に血が混じる理由は大腸がんに限らず、痔や大腸ポリープ、腸炎(薬、細菌、炎症性腸疾患など)、小腸疾患など多岐に渡ります。過去の検査では、食道や胃、十二指腸の病気、肉類などの食事の影響を受けたことがあります。現在はその影響はありません。「精密検査」となった場合は、大腸(まれに小腸)の病気がある可能性があると言えますが、大腸がんが全員に見つかるわけではありません。大腸がんが見つかるのは3~5%前後とされ、大腸ポリープが30%程度、そのほかは、先ほど挙げたような病気、あるいは異常なしの方も多くいます。

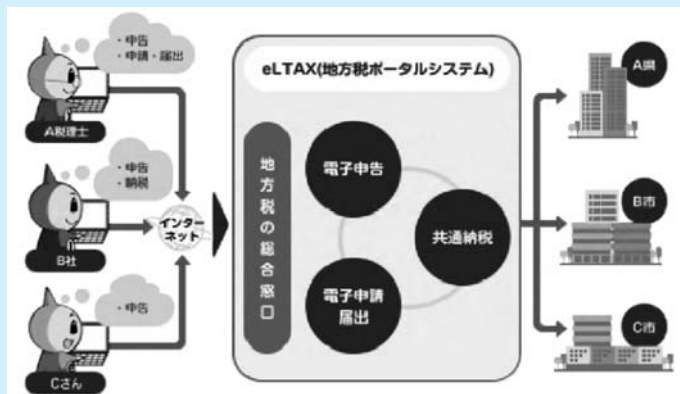
一般的に便は2回提出することになっています。2回のうち片方だけに血が混じた場合でも、精密検査を受診しなければなりません。大腸がんは常に出血しているわけではないからです。進行がんでは約10%、早期がんでは約30~50%が便潜血検査で陰性となると報告されています(これを「偽陰性=実際は病気があるのに、検査では異常なしになること」と呼びます。先月号のコラムを参照してください。)。ですから、1度でもひっかかったら、精密検査を受けなければなりません。再度便の検査をすることは意味がありません(女性の生理の場合は時期をずらして実施することが望ましいです)。

道立病院では、大腸カメラを受けられる他、大腸CT検査も行われています。精密検査を指示されたけれどカメラを受けたくない・・・という方は御相談ください。(北海道立羽幌病院 副院長 佐々尾 航 医師)

道税・市町村税の申告・納税がネットできる



地方税ポータルシステムエルタックスは、北海道で扱う「法人道民税・法人事業税・特別法人事業税・地方法人特別税」と市町村で扱う「個人道市町村民税」「法人市町村民税」「固定資産税(償却資産)」の申告、一部の届出及び「固定資産税(償却資産)」を除く各税目の納税をインターネットを利用して行えるシステムです。詳しい情報、ご利用届出はホームページ(<https://www.eltax.lta.go.jp/>)をご覧ください。



お問い合わせ 北海道留萌振興局税務課 ☎ 0164-42-8416
羽幌町財務課税務係 ☎ 68-7002 (係直通)

